



角スタッド工法（壁）

｜標準施工要領書｜

安全に関するご注意 ケガや事故防止のため、以下のことを必ずお守り下さい

1. 搬入時、資材の落下やずり落ちによるケガを防ぎ、腰を痛めないようにして下さい。
(現場での小運搬は無理のないようにご注意ください。)
2. 鋼材の切り口は鋭利であり、また、切断時にはバリも生じやすいので、手を傷つけないようにして下さい。
(軍手等保護手袋を着用して下さい。)
3. 素手による取り扱い、または素肌の露出部はケガをする恐れがありますのでご注意ください。
(素肌はなるべくさけるような服装にして下さい。)
4. 梱包用スチールバンド及び針金等の切断時ははねあがり等によるケガが生じますのでご注意ください。
(梱包をとく場合は状況判断して作業をして下さい。)
5. 搬入・保管時については次のような事項に注意して下さい。
 - ・原則として、屋内の湿気をよばない場所に保管して下さい。
(やむを得ず屋外に置く場合には防水シートをかけて下さい。)
 - ・製品は地面に直接置かないで平なところにかい木をして水平に置き、積み重ねる場合は間木を施して荷崩れを起こさないように置いて下さい。
 - ・クレーン荷揚げ等の運搬に関しては、布製平型吊りバンドを使用するなど製品の角や表面の損傷に注意して下さい。
また、製品の上に重いものを乗せないで下さい。
6. 壁に重量物を固定すると落下、脱落により、思わぬケガをしたり壁面を破損したりすることがあります。
(必要に応じ所定の補強をして下さい。)
7. 壁に重量物を立てかけたりすると倒壊により思わぬケガをすることがあります。
(壁には重量物を立てかけないで下さい。)

設計・施工上の重要品質基準

1. 鋼製下地材は、非構造部材であり、特に強度面を考慮して設計して下さい。
2. 鋼製下地材の構造は、照明器具や各種設備機器類の荷重及び地震時の挙動を考慮しておりませんので、これらの機器類は、所定の剛性・強度を有する構造とし、地震時の揺れにより壁に損傷を与えないよう設計して下さい。
3. 当該下地材が腐食・腐朽その他の劣化の恐れのある場合には、耐食性などを考慮した設計として下さい。
4. 施工は、設計図書及び施工計画書並びに設計者、監理者の承諾を受けた施工図等に従って行って下さい。
5. 設計図書に指示無き事については、書面等により設計者、監理者の承諾を受けた内容に従って施工を行って下さい。
6. 施工時に変更等を要する場合には、設計者、監理者に速やかに報告し、変更内容について書面等にて指示を受けた内容に従って施工を行って下さい。

1 節 一般事項

1.1 適用範囲

本要領書は、角スタッド工法(壁)の標準的な施工方法について規定する。

1.2 壁下地 各部の名称

角スタッド工法(壁)の各部の名称は図 1.1 による。

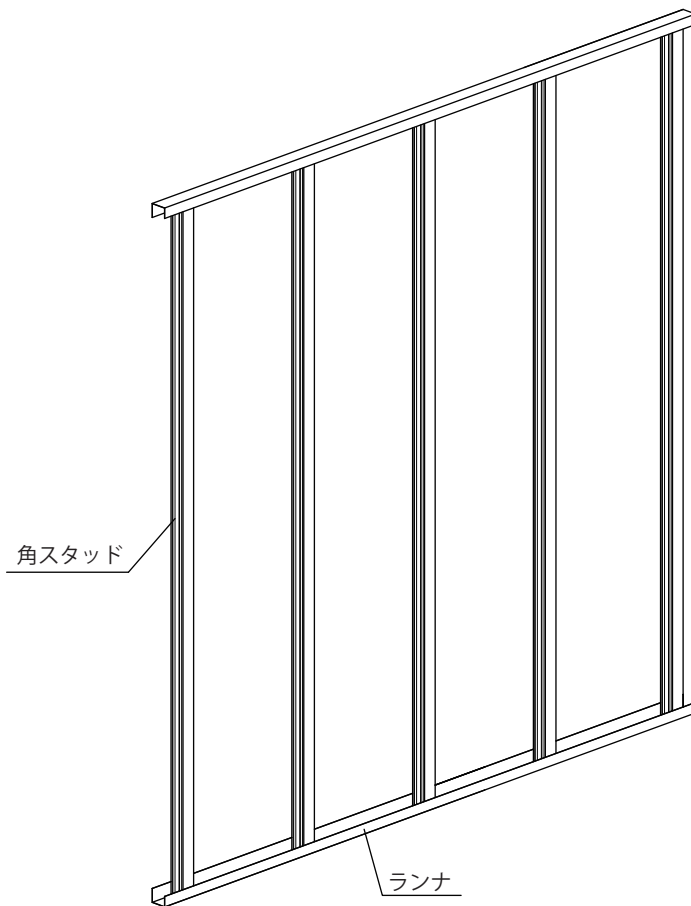


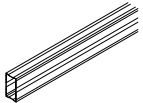
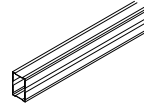
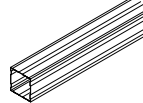
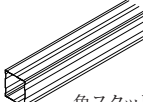
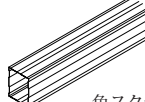
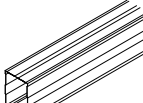
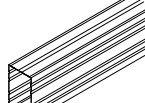
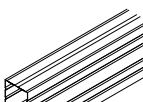
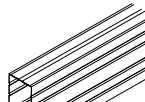
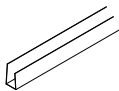
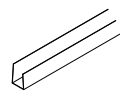
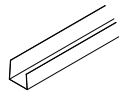
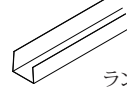
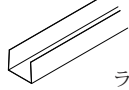
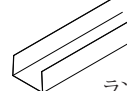
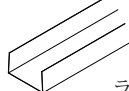


図 1.1 角スタッド工法(壁)の各部の名称(構成図例)

2節 使用部材

2.1 構成部材

角スタッド工法(壁)に用いる構成部材を表 2.1 に示す。

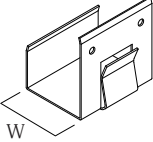
表 2.1 構成部材

部材	形状	仕様				
角スタッド	 角スタッド4020  角スタッド4025  角スタッド4040	材料規格	JIS G 3302 SGCC 又は SGHC Z08以上 t=0.45mm			
		備考				
	 角スタッド4045  角スタッド4050					
	 角スタッド4565  角スタッド4575					
	 角スタッド4590  角スタッド45100					
	ランナ			 ランナ20L  ランナ25L  ランナ40L	材料規格	JIS G 3302 SGCC 又は SGHC Z08以上
					備考	
				 ランナ45L  ランナ50L		
 ランナ65L  ランナ75L						
 ランナ90L  ランナ100L						

2.2 付属金物

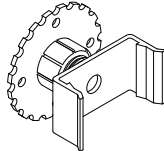
壁下地、千鳥工法に用いる金物を表2.2.1に示す。

表 2.2.1 千鳥工法に用いる付属金物

部材	形状	仕様	
ランナースパースー		材料規格	JIS G 3302 SGCC 又は SGHC Z12以上
		備考	W=10mm、15mm t=0.8mm W=20mm、25mm、30mm、35mm、50mm t=1.0mm

壁下地、ふかし壁工法に用いる金物を表2.2.2に示す。

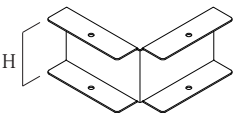
表 2.2.2 ふかし壁工法に用いる付属金物

部材	形状	仕様	
STパッキン		材料規格	ABS 樹脂
		備考	角スタッド4020 専用

2.3 補強金物

壁下地、開口補強に用いる金物を表 2.3 に示す。

表 2.3 接合補強金物

部材	形状	仕様	
L型ジョイント金物		材料規格	JIS G 3302 SGCC 又は SGHC Z12以上
		備考	H=40mm L型ジョイント40 H=45mm L型ジョイント45

3節 標準施工要領

3.1 施工手順

3.1.1 施工計画の確認

- (1) 施工に先立ち工程表、施工要領書および施工図等を必要に応じて作成し、監理者に提出し承認を得ることを原則とする。
- (2) 施工前に施工場所の確認を行い工程、施工範囲、各部の納まり、その他関連する工事について確認する。
- (3) コンクリートの養生は、コンクリート打設後、10日以上経過していることを確認する。
- (4) ランナ等の固定により、防水層などに損傷を与えないよう納まりを確認する。
- (5) 施工上の問題が発生した際には、速やかに設計監理者と協議を行い指示を仰ぐ。

3.1.2 部材の発注・検収・荷受け・保管

- (1) 施工図などにより、使用寸法・数量を確認しておく。
- (2) 角スタッドの長さは、上部ランナより10mm以下とする。躯体の仕上がり精度によりスラブのレベル誤差が生じる恐れがあるので、現場にて実測を行い材料発注するのが望ましい。

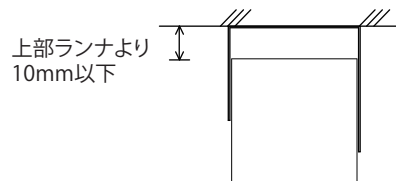


図 3.1 角スタッドの長さ

- (3) 現場での切断を最小にし、施工性を上げる為にも、必要な寸法を前もってメーカー工場等に発注する。
- (4) 部材の変形・損傷の有無の確認を行い検収する。
- (5) 保管は次の事項により行う。
 - ・各部材の置き場は事前に確保する。
 - ・各部材の上には重量物を載せないこと。
 - ・衝撃を与えないこと。
 - ・水や湿気の侵入を防ぐこと。
 - ・床置き等をする場合、反りや変形が生じない様に足入れする事。足入れ間隔を1.5m以上あけない様に配慮すること。

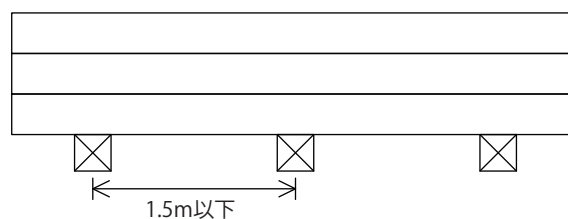


図 3.2 床置きする場合の足入れ間隔

3.1.3 墨出し

建物の基準墨や地墨などにより、設計図や施工図に基づき壁下地の芯墨、逃げ墨などを所定の位置に墨出し、スタックの割り付けを行う。また出入口など開口部の位置も事前に行う。

(但し、墨出しは工程管理者と協議の上、決定する)

3.1.4 上下ランナの固定

ランナを墨芯・逃げ墨に合わせ、端部を押さえ、@900mm程度に打込みピン等により、床・梁下・スラブ等に固定する。但し、ランナ固定位置が梁型端部になる場合等は、アングルピース・フラットバー・先行ピース等で補強し、タッピングビスの類、または溶接で固定する。ランナ両端部は、端部より約50mm内側を固定する。

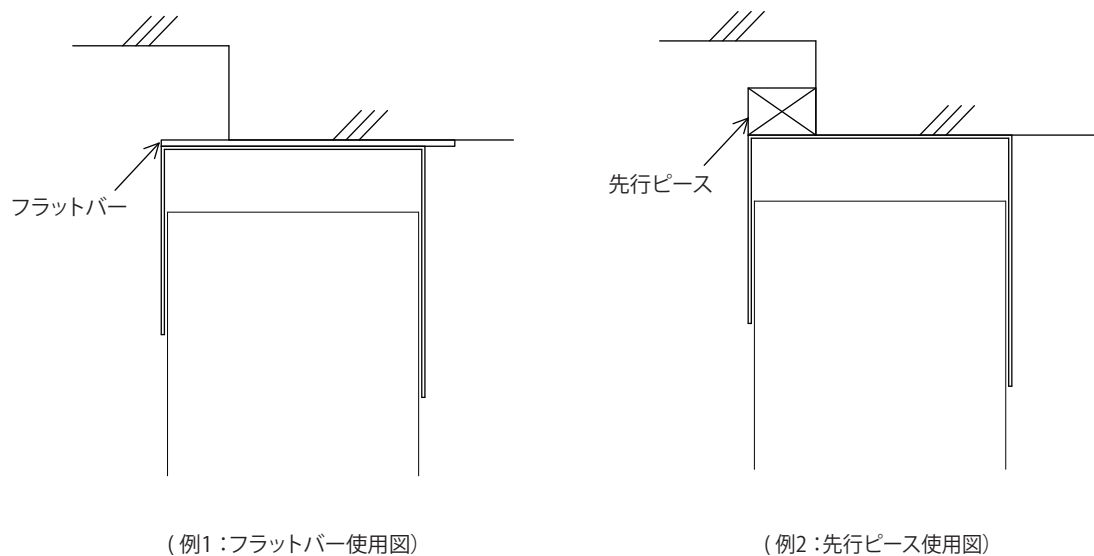


図 3.3 梁型端部のランナの固定

3.1.5 角スタッドの建て込み

角スタッドをランナに建て込む際には、角スタッドを斜めに傾けランナの幅に合わせて差込む。角スタッドの短辺をランナに差込み回転させて建て込む方法は、角スタッドのねじれを誘発するため極力避ける。

角スタッドの間隔は施工図に基づき、下地張りのある場合は @455mm 程度、仕上げ材料を直張りする場合は @303mm 程度とする。また、上部ランナと角スタッド天端の隙間は、10mm 以下とする。

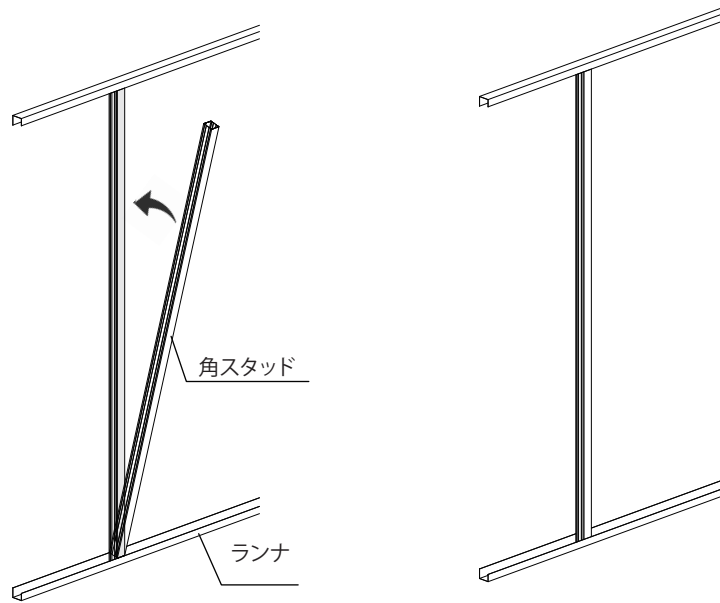


図 3.4 角スタッドの建て込み

3.1.6 壁際の角スタッドの固定

壁際の角スタッドが躯体壁に添えつく場合は、床面から 1500mm ピッチ程度にランナの端材を打込みピン等で壁に固定し、上下ランナと壁ランナに角スタッドを差込む。ボード張りの際に、ボード上より角スタッド、ランナ共にビス止め固定する。

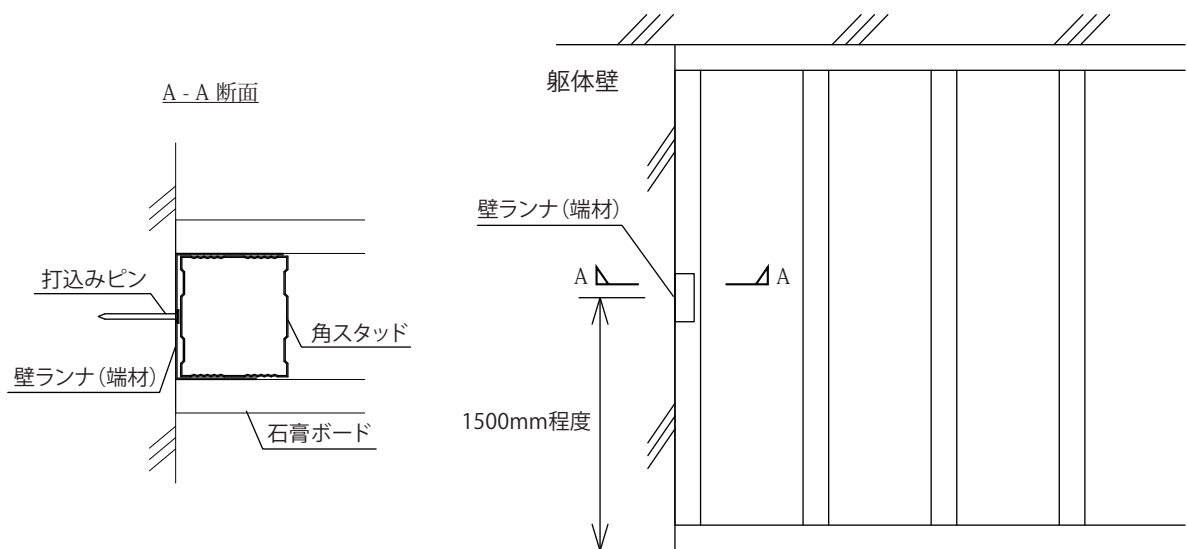


図 3.5 壁際の角スタッドの固定

3.1.7 壁補強(取り合い)

L字コーナーに関しては、端部の角スタッドと、端部横の角スタッドを長ビス等で接合固定する。

T字コーナーは、4本の角スタッドを使用し、長ビス等で固定する。

※スタッドが膨れやすいので注意する。

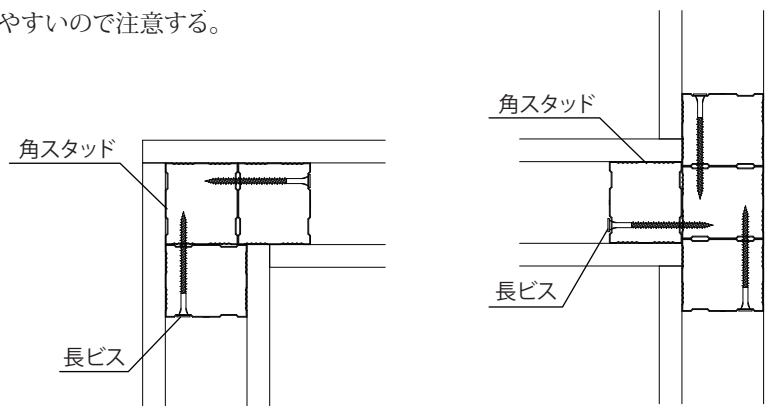


図 3.6 コーナー部の角スタッドの固定

3.1.8 開口部補強

WD 取付け部の開口補強は、開口部両脇に角スタッド2本抱き合わせを推奨とする。開口部のまぐさ部分に関しては、まぐさ下へ角スタッドをL型ジョイント等で取付け、ガタツキのない様に補強接合する。その他、角スタッド開口部補強には様々な施工方法があるため、工事監理者と打ち合わせにより決定すること。

SD 取付け部の開口補強は、在来工法に準ずる。

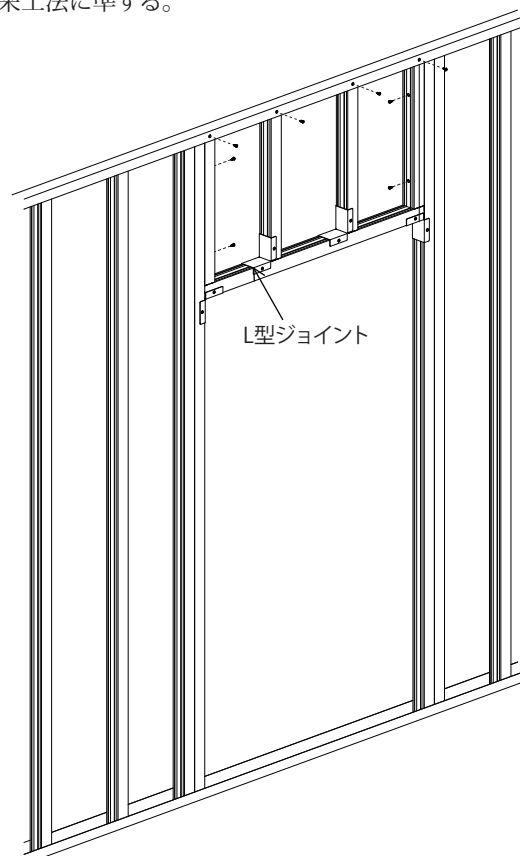


図 3.7 開口部補強

3.1.9 その他

- a. 溶接した箇所は錆び止め塗料を塗布する。
- b. 発生音や振動等の防止の為、鋼製下地材が直接ダクトに触れない様に注意する。
- c. ハゼ折り部分へのボード張り・ビス打ちは極力避ける様にする。

※安全管理対策として

火災の防火（建築法令 136 条の 8）溶接等火気を使用する場合は必ず現場の確認をとり安全を心掛ける事。

3.1.10 点検

壁下地材の施工完了後における点検・検査は下記項目等により行う。

- a. 設計図・施工図に基づく施工範囲の検査。
- b. 間仕切り壁の位置や出入口及び開口部等の位置及び寸法の検査。
- c. 取付け・締付け・溶接方法など各部材が規定通りの方法で正しく施工されているかの点検。
- d. 建ていれ精度の検査。
- e. 周辺部の取り合い・目違い・段差等の検査。
- f. 錆び止め検査。
- g. その他、これらに付帯する事項の点検と検査。

3.1.11 養生

- a. 重量物等による衝撃や外力を加えない様にする。
- b. 水や湿気の侵入を防ぐ事。
- c. その他。

3.1.12 次工程

ボード張り工程へ

角スタッド工法(壁下地材) 標準施工要領書

2020年 8月 22日 ver. 1.0

八潮建材工業株式会社

東京都墨田区江東橋2-3-10

Tel : 03 - 3631 - 7151

Fax : 03 - 3631 - 3207
